

先進自治体における取組事例

1. 事業所間連合による対応スキームの構築の事例

事例①

仲間まわしによる企業間ネットワークとIoT利活用【東京都大田区】

- 機械金属加工を中心に高度な技術を持つ中小事業所が集積している大田区では、受注した案件に対して必要な専門性を有する企業が順次加工を加えて製品を完成させる「仲間まわし」ネットワークが確立。
- 現在は、従来からの企業間ネットワーク（仲間まわし）を活かし「IoT 仲間まわしによる中小企業の生産性向上プロジェクト」を立ち上げ、IoT を介して大田区がひとつの仮想工場と機能していくことを目指した取組を推進。
⇒企業間ネットワークの再構築と新たなネットワークへの発展を目指すとともに、将来的には受発注機能を融合することで、より多くの案件の受注を目指し取組を進めている。

事例②

つながる町工場プロジェクト【東京都江戸川区】

- 「ステンレス加工」「溶接」「組み立て」といった異なる技術を持つ3つの町工場が、インターネットを使った共通のシステムを導入することで、互いの生産工程を一元化。
⇒3つの町工場が1つの工場のように稼働することで、それぞれの技術を活かした付加価値のある部品を作ることが狙い。
- 具体的には、市販のタブレット端末を活用し、作業員の作業状況をリアルタイムで共有すること等で、ムダな予備日等をなくしコストを抑制。
- 短縮された作業時間を活用し、3社のオリジナル製品の開発も進め、新たなビジネスチャンスの獲得に向け取組を推進。

2. 成長産業分野への取組方法の事例

事例③

AI を活用した金型見積ノウハウの技能継承【山形県河北町】

- 中小金型メーカー（株）IBUKIにおいて、ベテランの設計知見を AI 化。顧客からの個別依頼に対し、過去の類似実績が探索できる IT システムを構築。
⇒以前は顧客からの見積依頼に対し、ベテラン（工場長）1 名が見積設計を行っていたため、設計ノウハウがブラックボックス化していた。
⇒若手技術者が半日掛かっていた実績情報収集の作業時間を 30 分に短縮。
- 過去の見積設計知見を AI により視覚化したことにより、ベテランの見積設計の思考経路を若手技術者が効率的に継承することが可能となった。
- 製造ノウハウを知らない設計者や技術者が増加している大手メーカーに対し、製造ノウハウを活かした金型技術コンサルティング事業を新規事業として展開。

3. ものづくりのまちに向けたイメージ戦略の事例

事例④

ものづくりのまち おおがき【岐阜県大垣市】

- 大企業や高度な技術力を有する中小の製造業などが集積するとともに、アプリケーション開発等に取り組む IT 関連企業などが集まる情報産業集積地「ソフトピアジャパン」を平成 8 年より整備するなど、「ものづくりのまち おおがき」を掲げたまちづくりを展開。
- 次世代に向けたものづくり人材の育成や産業全体のレベルアップに向け、小学生や工業高校生などを対象とした「ものづくり体験講座」や製造現場でのリーダー候補を育成する「ものづくりリーダー育成講座」など、ものづくりに係る様々な講座を開催。

▼ソフトピアジャパンエリア



出典：大垣市

4. 成長産業分野に取り組むための支援策の事例

事例⑤

デジタルものづくりカフェ「FabCafe Hida」[岐阜県飛騨市]

○飛騨市、(株)トビムシ、(株)ロフトワークによって、官民共同事業体「(株)飛騨の森でクマは踊る」を設立。個人が工場を持たずに製品を作れるよう、デジタル工作機器を整備した「FabCafe Hida」を運営。

○森林が市の面積の約 93%を占める飛騨市において、間伐材を調達し、ものづくりの原材料として提供。

▼FabCafe Hida



出典：(株)飛騨の森でクマは踊る